



#### 第4回 社会的養護の当事者との関わり

私が施設勤務時代に関わった子どもたちの多くは、すでに社会人となり、それぞれの生活を送っている。彼らは私にとっても大きな影響をもたらす存在である。

そのなかのひとりが、社会的養護の当事者のためのサロン「だいじ家」の代表を務める塩尻真由美である。はなの家の補助者としても働いていた。当事者である彼女の感性や視点は、当然私とは違う部分がある。良かれと思っただけのことが「子どもの気持ちは違う！！」と一刀両断されたことや、養育する側の意見が相容れない感情や誤解を生じさせたことも少なくない。しかし彼女の経験は、施設で暮らす子どもたちの実情や親への思い、求められる職員像など、私が思ってもみなかったことも多く、考えさせられることばかりなのである。

現在彼女は、結婚し育児に専念している。結婚前の数年間を私と暮らしていたこともあって、さながら嫁に出した娘のような関係であり、「孫」を連れて里帰りもする。出産子育て、そして母親になっていく過程で、たくさんの人たちとつながる大切さを子どもたちに見せてくれている。

私との関係で、はなの家には安定した生活を送っていない当事者たちも出入りしている。食材を持たせることもある。お金を返しに来る人、借りに来る人がいる。できれば子どもたちには見せたくない姿の場合もあるが、応接室がないので隠しようもない。ありのままの現実や私とのやり取りの様子もまた、子どもたちには社会を学ぶ機会となっているのである。

季刊「児童養護」2018 Vol.49 No.3 掲載

